

男性のみなさん、家族のために育児や家事に協力していますか。女性の社会進出が進み共働き家庭が多くなった現在、男性の協力がとても必要になってきています。

今の若い世代には、核家族化により頼れる人が近くにいないなどの状況もあり、家事・育児に率先して参加するイクメン、カジメン男性が最近では増えてきています。20〜40代の男性を対象にした男性の育児、家事に関する調査（リクナビNEXT）によると、家事に協力している男性は約7割にも上ります。しかし中には、帰宅時間が遅く時間がないことや、家事が得意ではないなどの理由で、協力ができていない現状もあります。男性が家事・育児に関わることは、仕事へのやる気や張り合いにもつながるといデータもあります。

一方団塊の世代では、家事・育児は女性の仕事という意識が強く、家族に任せっきりでほとんど関わることがなかった男性が多いのではないかと思っています。

このような中で、子育て世代から団塊の世代まで、どの世代でも協力できる家事は、掃除や洗濯などいろいろある中でも、特に家族に喜ばれるのは料理ではないかと

「男性の家事協力」

思います。スーパーやコンビニに行けばいつでもお惣菜が簡単に手に入りますが、男性が振舞う手料理は、家族にとって特別なものではないでしょうか。料理は五感を使うことで心を豊かにしてくれま。楽しさや達成感を感じられ、リフレッシュできるものの一つでもあります。家族の病気や老親の介護の時にも役立ちます。また、家族と一緒に料理することでコミュニケーションも図れ、食生活も充実するのではないかと思います。料理が苦手な人、退職後あるいは老後のことを考えて料理をやってみたいと思っている男性のみなさん、挑戦してみませんか。地域の公民館などで開催している料理教室などに参加して、腕を上げましょう。きっと家族に喜ばれると思いますよ。

このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願います。人権について考えるきっかけになることを目的としています。

問い合わせ

人権啓発広報委員会

880・6569